

青少年の組織キャンプにおける生活技術遂行の特徴

白木 賢信
(筑波大学大学院)

【要旨】

本論文は、青少年の組織キャンプにおける生活技術習得上の問題点を明らかにするために、遂行の難易度の高い技術、遂行における指導者の援助の多い技術や少ない技術を明らかにし、それらの技術遂行への影響を明らかにしようとするものである。そのために、野外炊事などの食事にかかわる活動を事例に、技術の種類別の検討を行った。検討の結果、指導者による遂行状況の評価が低い技術からは、難易度が高い技術と、指導者の援助がよくなされている技術の2タイプを取り出すことができた。とくに、消火の準備の仕方や点火用の枯枝の準備の仕方にかかわる技術は、遂行状況の評価が低く難易度が高いのにもかかわらず、指導者による援助がほとんどなされていないものであることが判明したが、このことはキャンププログラムやキャンプ指導にあっても検討しなければならない課題であろう。

I. 目的

本論文は、青少年の組織キャンプ（以下キャンプ）における生活技術遂行の特徴を、技術遂行の難易度や技術遂行における指導者の援助の影響から明らかにしようとするものである。この特徴解明は、キャンプにおける生活技術習得上の問題点を明らかにするために行うものである。

キャンプにおける生活技術習得上の問題点を解明しようとする研究作業としては、これまで、キャンププログラムの食事にかかわる生活技術の遂行状況や到達度の検討を行ってきた¹⁾。これらの検討により、一連の作業の準備段階の技術および緊急時への備えの技術の遂行状況や到達度の評価が低いことが判明した。これは、キャンプにおける生活技術習得上の問題点の一つであると予想されるが、この検討だけでは不十分であろう。なぜなら、どのような種類の技術がどの程度遂行することが難しいのかということや²⁾、各技術遂行で指導者がどれくらい援助しているのかということなどが、技術遂行の良し悪しに影響を与えていると考えられるからである。そこで本論文では、難易度や指導者の援助の技術遂行への影響の特徴を明らかにすることにより、生活技術遂行の特徴の一端を解明することにしたい。この特徴解明は、これまで検討したキャンプにおける生活技術習得上の問題点をさらに検討して明確にすることを意味している。具体的には以下の検討課題を設定した。

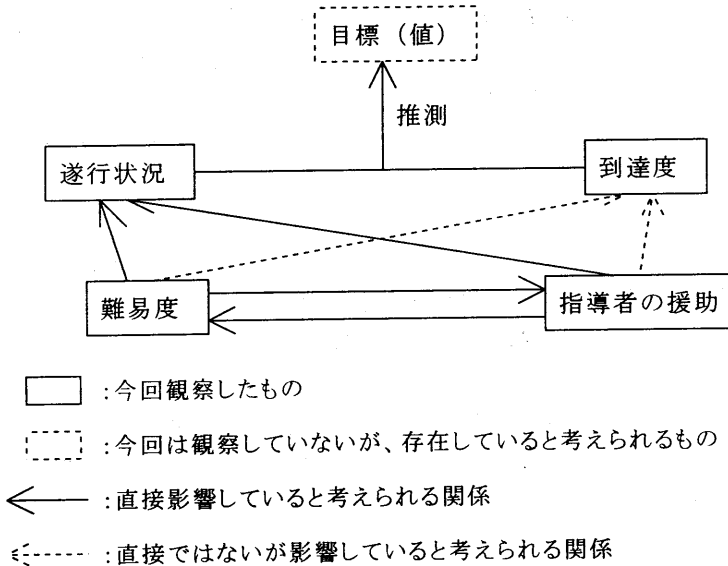
- (1) 難易度の高い生活技術はどのような技術かを明らかにする。
- (2) 指導者の援助がよくなされている生活技術、指導者の援助があまりなされていない生活技術はどのような技術かを明らかにする。

(3) (1)、(2)で明らかにされた技術は、遂行状況の評価の低い生活技術とどのような関係にあるのかを明らかにする。

II. 研究方法

前述の目的を達成するために、今回は、野外炊事などキャンプで実施される食事にかかわる活動を事例に分析を行った。分析では生活技術の考え方をもとにした生活技術遂行の分析枠組を用いている³⁾。難易度は技術遂行の達成の成否までの回数で捉え（「一度でうまくできた」「繰り返し行ってうまくできた」「繰り返し行ったがうまくできなかった」の3段階尺度）、また指導者の援助は、キャンプ指導者の担当班に対する援助の有無によって捉えることにした。分析に用いた観察データは1998年に収集したもので⁴⁾、そのうち遂行状況と到達度の部分はすでに報告した⁵⁾。今回取り上げるのは、難易度と指導者の援助の部分である。これらの観察内容とその関係は第1図の通りである。なお今回は、どちらも、キャンプ前半に行った第1回観察（以下第1回）とキャンプ後半に行った第2回観察（以下第2回）の平均で捉えている。

第1図 観察内容とその関係



III. 研究結果と考察

まず、難易度の高い生活技術はどのような技術かをみとめることにしよう(第1表参照)。難易度を技術遂行の成否から検討すると、「繰り返し行ったがうまくできなかった」の比率の高い技術は、消火用の水の準備の仕方、消火用の砂または土などの準備の仕方、点火用の枯枝の探し方・集め方となる。さらに技術遂行の成否までの回数も考慮に入れ、難易度のタイプ分けを行うと第2表のようになる⁶⁾。この表で、タイプVI、タイプVII、タイプVIIIに入る8つの技術を難易度が高い生活技術とすれば、その技術は、消火の準備の整え方、点火用の枯枝の準備の仕方、薪の保管の仕方にかかわる技術などということになる⁷⁾。

次に、指導者の援助についてであるが、第3表によると、指導者の援助「あり」の比率の高い技術、つまり指導者の援助がよくなされている生活技術は、食事前の配膳の仕方や

第1表 各種生活技術遂行の難易度

(%)

生活技術	(観察者数)	た			計
		できた でうまく 行っ	てうま くでき なかつ	たがう まかつ	
1000 消火の準備の整え方	(4)	50.0	0	50.0	100.0
1100 (消火用の) 水の準備の仕方	(3)	33.3	0	66.7	100.0
1200 (消火用の) 砂または土などの準備の仕方	(3)	33.3	0	66.7	100.0
2000 点火の準備の仕方	(4)	75.0	25.0	0	100.0
2100 薪置き場の作り方	(4)	50.0	37.5	12.5	100.0
2200 つけ木・焚き付けの作り方	(4)	75.0	25.0	0	100.0
2210 (点火用の) 焚き付け(紙)の作り方	(4)	62.5	12.5	25.0	100.0
2220 (点火用の) 枯枝の探し方・集め方	(3)	33.3	0	66.7	100.0
2230 (点火用の) 枯枝の折り方	(3)	50.0	0	50.0	100.0
2240 薪の割り方	(4)	62.5	37.5	0	100.0
2300 薪の保管の仕方	(3)	66.7	0	33.3	100.0
2310 薪の分類の仕方	(3)	83.3	0	16.7	100.0
2320 (薪の) 雨や夜露からの保護の仕方	(3)	33.3	16.7	50.0	100.0
3000 点火の仕方	(3)	83.3	16.7	0	100.0
3100 火床(となる場所)の乾かし方	(3)	66.6	16.7	16.7	100.0
3110 乾いた石や薪の(火床となる場所への)並べ方	(3)	100.0	0	0	100.0
3200 火床の作り方	(3)	100.0	0	0	100.0
3210 (点火用の) 焚き付け(紙)の組み方	(4)	100.0	0	0	100.0
3220 つけ木や薪などの組み方	(4)	100.0	0	0	100.0
3300 (点火時の) マッチの擦り方	(2)	100.0	0	0	100.0
3400 (点火時の) マッチの火床への入れ方	(3)	100.0	0	0	100.0
4000 焚火の維持の仕方	(4)	75.0	12.5	12.5	100.0
4100 (焚火を維持するための) 焚き付け・薪の補充の仕方	(4)	75.0	12.5	12.5	100.0
4200 (焚火を維持するための) 空気の入れ方	(4)	75.0	25.0	0	100.0
5000 米の炊き方	(4)	100.0	0	0	100.0
5100 米の洗い方	(4)	100.0	0	0	100.0
5200 (米の炊事時、米の洗浄後の) 水のコッヘルへの入れ方	(4)	87.5	12.5	0	100.0
5300 (米を入れた) コッヘルのかまどへのかけ方	(4)	100.0	0	0	100.0
5400 (米の炊事時の) 蒸気の確認の仕方	(4)	87.5	12.5	0	100.0
5500 (米の炊事時の) 水の調節の仕方	(3)	83.3	0	16.7	100.0
5510 (米の) 味見等の仕方	(4)	87.5	0	12.5	100.0
5520 (米の味見後の) 水の補充の仕方	(4)	87.5	0	12.5	100.0
5600 (米を入れた) コッヘルのかまどからのはずし方	(3)	100.0	0	0	100.0
6000 焚火の消し方	(4)	87.5	12.5	0	100.0
6100 (焚火の消火時の) 火の熾の散らし方	(4)	87.5	0	12.5	100.0
6200 (焚火の消火時の) 火のかき回し方	(4)	87.5	0	12.5	100.0
6300 (焚火の消火時の) 水のかけ方	(4)	75.0	0	25.0	100.0
6400 (焚火の消火時の) 消し炭のまとめ方	(4)	100.0	0	0	100.0
6500 (焚火の消火時の) 灰の所定の場所への運び方	(4)	87.5	12.5	0	100.0
6600 (焚火の消火時の) 残木の保存の仕方	(4)	87.5	12.5	0	100.0
7000 (食事前の) 配膳の仕方	(4)	62.5	25.0	12.5	100.0
7100 (食事前の) 席の決め方	(5)	90.0	10.0	0	100.0
7200 (食事前の) 料理の取り分け方	(5)	70.0	20.0	10.0	100.0
7300 (食事前の) 食器の並べ方	(5)	50.0	40.0	10.0	100.0
8000 食事の仕方	(5)	100.0	0	0	100.0
8100 (食事時の) はし等の使い方	(5)	90.0	10.0	0	100.0
8200 (食事時の) 食器の使い方(持ち方、受け方、渡し方)	(5)	100.0	0	0	100.0
9000 (食事後の) 後片付けの仕方	(3)	100.0	0	0	100.0
9100 (食事後の) テーブルの上の片付け方	(4)	100.0	0	0	100.0
9200 (食事後の) 食器の洗い方	(4)	87.5	12.5	0	100.0
9210 (食器の) 汚れの落とし方	(4)	100.0	0	0	100.0
9220 (食器洗浄時、食器に付いた) 洗剤の流し方	(4)	100.0	0	0	100.0
9230 (食器洗浄時、食器に付いた) 水滴のとり方	(4)	87.5	12.5	0	100.0
9300 食器の(洗浄後の) 片付け方	(4)	87.5	12.5	0	100.0
9310 (食器洗浄後の) 食器の保管の仕方	(4)	87.5	12.5	0	100.0
9400 (食事後の) ごみ処理の仕方	(4)	75.0	12.5	12.5	100.0
9410 (食事後の) ごみ分別の仕方	(4)	62.5	25.0	12.5	100.0
9420 (食事後の) 残飯処理の仕方	(4)	62.5	25.0	12.5	100.0
平均		80.5	9.5	10.0	100.0

a)表中の括弧内の数字は、各生活技術について、第1回・第2回のどちらも観察記録用紙に回答した観察者数である。

b)表中の比率の母数は、a)の観察者数の2倍(観察2回分)である。

第2表 生活技術遂行の難易度の分類

	B=1.00	0.50<B≤1.00	0.20<B≤0.50	0<B≤0.20	B=0
A=1.00					<タイプⅠ> 3110, 3200, 3210, 3220, 3300, 3400, 5000, 5100, 5300, 5600, 6400, 8000, 8200, 9000, 9100, 9210, 9220
0.80≤A<1.00				<タイプⅡ> 3000, 5200, 5400, 6000, 6500, 6600, 7100, 8100, 9200, 9230, 9300, 9310	<タイプⅢ> 2310, 5500, 5510, 5520, 6100, 6200
0.50≤A<0.80			<タイプⅣ> 2000, 2100, 2200, 2240, 4200, 7000, 7300, 9410, 9420	<タイプⅤ> 2210, 3100, 4000, 4100, 7200, 9400	<タイプⅥ> 1000, 2230, 2300, 6300
0<A<0.50				<タイプⅦ> 2320	<タイプⅧ> 1100, 1200, 2220
A=0					

a)表中の数字は、生活技術No.である。

b)A = 「一度でうまくできた」と評価したのべ観察者数/のべ観察者数

c)B = 「繰り返し行っとうまくできた」と評価したのべ観察者数/のべ観察者数

d)タイプⅠ以外の生活技術の中には、A と B の合計が 1.00 未満のものがあるが、それは「繰り返し行っとうまくできなかった」と評価した観察者がいるからである。

食事後の後片付けの仕方にかかわる技術である。また焚火の維持の仕方や焚火の消し方のような焚火の扱い方にかかわるような技術は、指導者の援助「あり」の比率が全種類で中位程度となっている^{*)}。これに対し指導者の援助「あり」の比率の低い生活技術、つまり指導者の援助があまりなされていない生活技術は、消火の準備の整え方、点火用のつけ木・焚き付けの作り方、点火の仕方にかかわる技術となっている。

難易度が高い技術、指導者の援助がよくなされている生活技術、指導者の援助があまりなされていない生活技術は以上の通りであるが、次にそれらが遂行状況の評価の低い生活技術とどのような関係にあるか明らかにすることにしよう^{*)}。まず、遂行状況の評価の低い生活技術、難易度の高い生活技術、指導者の援助「あり」の比率の高いおよび低い生活技術を並べてみると、第4表、第5表のようになっている。これらを検討すると、そこから次の2タイプを取り出すことができる。

まず、第一のタイプは、指導者による遂行状況の評価が低い生活技術のうち、難易度が高い生活技術である。このタイプでは、生活技術の遂行状況の評価が低いことに対し、技術遂行の難しさの影響が考えられる。具体的には、1000 消火の準備の整え方、1100 (消火用の) 水の準備の仕方、1200 (消火用の) 砂または土などの準備の仕方、2220 (点火用の) 枯枝の探し方・集め方、2230 (点火用の) 枯枝の折り方、2300 薪の保管の仕方、2320 (薪の) 雨や夜露からの保護の仕方、6300 (焚火の消火時の) 水のかけ方の8種類である。さらに、これらの生活技術のうち、指導者の援助「あり」の比率の低い生活技術は、1000 消火の準備の整え方、1100 (消火用の) 水の準備の仕方、1200 (消火用の) 砂または土などの準備の仕方、2220 (点火用の) 枯枝の探し方・集め方、2230 (点火用の) 枯枝の折り

第3表 各種生活技術遂行における指導者の援助—指導者の援助「あり」の場合—
(%)

生活技術	(観察者数)	全体	第1回	第2回	備考
9410 (食事後の) ごみ分別の仕方	(4)	75.0	75.0	75.0	→
2240 薪の割り方	(4)	62.5	75.0	50.0	↘
7000 (食事前の) 配膳の仕方	(4)	62.5	100.0	25.0	↘
9420 (食事後の) 残飯処理の仕方	(4)	62.5	75.0	50.0	↘
2100 薪置き場の作り方	(4)	50.0	50.0	50.0	→
7300 (食事前の) 食器の並べ方	(5)	50.0	60.0	40.0	↘
9000 (食事後の) 後片付けの仕方	(3)	50.0	66.7	33.3	↘
9100 (食事後の) テーブルの上の片付け方	(4)	50.0	75.0	25.0	↘
9200 (食事後の) 食器の洗い方	(4)	50.0	75.0	25.0	↘
9230 (食器洗浄時、食器に付いた) 水滴のとり方	(4)	50.0	75.0	25.0	↘
9310 (食器洗浄後の) 食器の保管の仕方	(4)	50.0	50.0	50.0	→
9400 (食事後の) ごみ処理の仕方	(4)	50.0	75.0	25.0	↘
7100 (食事前の) 席の決め方	(5)	40.0	60.0	20.0	↘
7200 (食事前の) 料理の取り分け方	(5)	40.0	60.0	20.0	↘
2000 点火の準備の仕方	(4)	37.5	50.0	25.0	↘
5400 (米の炊事中の) 蒸気の確認の仕方	(4)	37.5	50.0	25.0	↘
5510 (米の) 味見等の仕方	(4)	37.5	75.0	0	↘
9210 (食器の) 汚れの落とし方	(4)	37.5	50.0	25.0	↘
9220 (食器洗浄時、食器に付いた) 洗剤の流し方	(4)	37.5	50.0	25.0	↘
9300 食器の(洗浄後の) 片付け方	(4)	37.5	50.0	25.0	↘
2320 (薪の) 雨や夜露からの保護の仕方	(3)	33.3	33.3	33.3	→
5500 (米の炊事中の) 水の調節の仕方	(3)	33.3	66.7	0	↘
4000 焚火の維持の仕方	(4)	25.0	50.0	0	↘
4100 (焚火を維持するための) 焚き付け・薪の補充の仕方	(4)	25.0	50.0	0	↘
4200 (焚火を維持するための) 空気の入れ方	(4)	25.0	50.0	0	↘
5000 米の炊き方	(4)	25.0	25.0	25.0	→
5520 (米の味見後の) 水の補充の仕方	(4)	25.0	50.0	0	↘
6000 焚火の消し方	(4)	25.0	25.0	25.0	→
6400 (焚火の消火時の) 消し炭のまとめ方	(4)	25.0	25.0	25.0	→
6500 (焚火の消火時の) 灰の所定の場所への運び方	(4)	25.0	25.0	25.0	→
6600 (焚火の消火時の) 残木の保存の仕方	(4)	25.0	50.0	0	↘
8000 食事の仕方	(5)	20.0	20.0	20.0	→
8200 (食事時の) 食器の使い方(持ち方、受け方、渡し方)	(5)	20.0	20.0	20.0	→
2300 薪の保管の仕方	(3)	16.7	33.3	0	↘
2310 薪の分類の仕方	(3)	16.7	33.3	0	↘
5600 (米を入れた) コッヘルのかまどからのはずし方	(3)	16.7	33.3	0	↘
2200 つけ木・焚き付けの作り方	(4)	12.5	0	25.0	↗
5100 米の洗い方	(4)	12.5	25.0	0	↘
5200 (米の炊事時、米の洗浄後の) 水のコッヘルへの入れ方	(4)	12.5	0	25.0	↗
5300 (米を入れた) コッヘルのかまどへのかけ方	(4)	12.5	25.0	0	↘
6100 (焚火の消火時の) 火の熾の散らし方	(4)	12.5	25.0	0	↘
6200 (焚火の消火時の) 火のかき回し方	(4)	12.5	25.0	0	↘
6300 (焚火の消火時の) 水のかかけ方	(4)	12.5	25.0	0	↘
8100 (食事時の) はし等の使い方	(5)	10.0	20.0	0	↘
1000 消火の準備の整え方	(4)	0	0	0	→
1100 (消火用の) 水の準備の仕方	(3)	0	0	0	→
1200 (消火用の) 砂または土などの準備の仕方	(3)	0	0	0	→
2210 (点火用の) 焚き付け(紙)の作り方	(4)	0	0	0	→
2220 (点火用の) 枯枝の探し方・集め方	(3)	0	0	0	→
2230 (点火用の) 枯枝の折り方	(3)	0	0	0	→
3000 点火の仕方	(3)	0	0	0	→
3100 火床(となる場所)の乾かし方	(3)	0	0	0	→
3110 乾いた石や薪の(火床となる場所への) 並べ方	(3)	0	0	0	→
3200 火床の作り方	(3)	0	0	0	→
3210 (点火用の) 焚き付け(紙)の組み方	(4)	0	0	0	→
3220 つけ木や薪などの組み方	(4)	0	0	0	→
3300 (点火時の) マッチの擦り方	(2)	0	0	0	→
3400 (点火時の) マッチの火床への入れ方	(3)	0	0	0	→
平均		26.2	36.7	15.8	↘

a)表中の括弧内の数字は、各生活技術について、第1回・第2回のどちらも観察記録用紙に記録した観察者数である。

b)表中の比率の母数は、a)の観察者の2倍(観察2回分)である。

c)表側の生活技術は、指導者の援助「あり」のキャンプ全体の比率(第1回・第2回の両データを平均したもの)の高い順に並べられている。

d)表頭の備考欄について、↘は第1回の比率>第2回の比率、↗は第1回の比率<第2回の比率、→は第1回の比率=第2回の比率である。

第4表 遂行状況の評価の低い生活技術、難易度の高い生活技術、指導者の援助「あり」の比率の高い生活技術

遂行状況の評価の低い生活技術	難易度の高い生活技術	指導者の援助「あり」の比率の高い生活技術
1000 消火の準備の整え方 1100 (消火用の) 水の準備の仕方 1200 (消火用の) 砂または土などの準備の仕方 2100 薪置き場の作り方 2220 (点火用の) 枯枝の探し方・集め方 2230 (点火用の) 枯枝の折り方 2300 薪の保管の仕方 2310 薪の分類の仕方 2320 (薪の) 雨や夜露からの保護の仕方 4000 焚火の維持の仕方 4100 焚き付け・薪の補充の仕方 6300 (焚火の消火時の) 水のかかけ方 7100 (食事をする時の) 席の決め方	1000 消火の準備の整え方 1100 (消火用の) 水の準備の仕方 1200 (消火用の) 砂または土などの準備の仕方 2220 (点火用の) 枯枝の探し方・集め方 2230 (点火用の) 枯枝の折り方 2300 薪の保管の仕方 2320 (薪の) 雨や夜露からの保護の仕方 6300 (焚火の消火時の) 水のかかけ方	2100 薪置き場の作り方 2240 薪の割り方 7000 (食事前の) 配膳の仕方 7100 (食事をする時の) 席の決め方 7200 (食事前の) 料理の取り分け方 7300 (食事前の) 食器の並べ方 9000 (食事後の) 後片付けの仕方 9100 (食事後の) テーブルの上の片付け方 9200 (食事後の) 食器の洗い方 9230 (食器洗浄時、食器に付いた) 水滴のとり方 9310 (食器洗浄後の) 食器の保管の仕方 9400 (食事後の) ごみ処理の仕方 9410 (食事後の) ごみ分別の仕方 9420 (食事後の) 残飯処理の仕方

方の5種類であるが(第5表参照)、これらは前述したように遂行状況の評価が低く難易度が高いにもかかわらず、ほとんどの指導者が援助していないものである。その原因には、例えば指導者がこの技術遂行への援助の必要性に気付いていないことや、仮に指導者が援助の必要性に気付いていたとしても援助方法を身に付けていないことなどが考えられる。

第二のタイプに入る技術は、指導者による遂行状況の評価が低い生活技術のうち、指導者による援助「あり」の比率の高い生活技術、つまり指導者による援助がよくなされている生活技術で、2100 薪置き場の作り方と7100(食事をする時の)席の決め方の2種類である。これらの遂行状況の評価が低くなったのは、参加者の技術遂行において、指導者による援助を必要以上に受けたこと(例えば、参加者だけで進める予定であった作業を指導者に手伝ってもらいながら進めたこと)が影響していると考えられる。

上記2タイプ以外の遂行状況の評価の低い生活技術は、2310 薪の分類の仕方、4000 焚火の維持の仕方、4100 焚き付け・薪の補充の仕方である。これらの遂行状況の評価が低いのは、技術遂行が難しいことや、技術遂行における指導者の援助があったこととは異なる他の要因が影響していると考えられる。

検討の結果、遂行状況の評価の低い生活技術から、前述の2タイプが取り出された。今回の事例の食事にかかわる活動は、生活技術習得活動の分析枠組による分析でウエイトの置かれていることが判明した領域の活動の一つであるので¹⁰⁾、それとのかかわりから今回

第5表 遂行状況の評価の低い生活技術、難易度の高い生活技術、指導者の援助「あり」の比率の低い生活技術

遂行状況の評価の低い生活技術	難易度の高い生活技術	指導者の援助「あり」の比率の低い生活技術
1000 消火の準備の整え方 1100 (消火用の) 水の準備の仕方 1200 (消火用の) 砂または土などの準備の仕方 2100 薪置き場の作り方	1000 消火の準備の整え方 1100 (消火用の) 水の準備の仕方 1200 (消火用の) 砂または土などの準備の仕方	1000 消火の準備の整え方 1100 (消火用の) 水の準備の仕方 1200 (消火用の) 砂または土などの準備の仕方
2220 (点火用の) 枯枝の探し方・集め方 2230 (点火用の) 枯枝の折り方 2300 薪の保管の仕方 2310 薪の分類の仕方 2320 (薪の) 雨や夜露からの保護の仕方	2220 (点火用の) 枯枝の探し方・集め方 2230 (点火用の) 枯枝の折り方 2300 薪の保管の仕方 2320 (薪の) 雨や夜露からの保護の仕方	2210 (点火用の) 焚き付け(紙)の作り方 2220 (点火用の) 枯枝の探し方・集め方 2230 (点火用の) 枯枝の折り方
4000 焚火の維持の仕方 4100 焚き付け・薪の補充の仕方 6300 (焚火の消火時の) 水のかかけ方 7100 (食事をする時の) 席の決め方	6300 (焚火の消火時の) 水のかかけ方	3000 点火の仕方 3100 火床(となる場所)の乾かし方 3110 乾いた石や薪の(火床となる場所への)並べ方 3200 火床の作り方 3210 (点火用の) 焚き付け(紙)の組み方 3220 つけ木や薪などの組み方 3300 (点火時の) マッチの擦り方 3400 (点火時の) マッチの火床への入れ方

の検討結果を考察すると、今回検討した問題点は、生物的機能維持の領域のうち、衣食住に関する日常的な物質的満足を目指す技術の習得上の問題点ということになるであろう。キャンプで繰り返し実施される野外炊事などの食事にかかわる活動は、まさにキャンプ生活を物質的に満足させるために必要な活動であるが、そのための技術のうち遂行状況の評価が低い準備段階および備えにかかわる技術は、技術の種類別にみると、遂行の難しさによる場合や、指導者の援助を過度に受けていることによる場合があると考えられる。このことについては、今後も検討を加えていく必要がある。

IV. 今後の課題

今後検討しなければならない課題については、次の2点が挙げられる。第一は、たとえ同じ生活技術習得活動でも、指導者(または経験豊富な参加者)と参加者の間で行われている生活技術の指導・習得に違いがあることによって技術の遂行状況が異なってくることである。これらについての検討を加えるためには、生活技術の指導・習得場面の分析を行う必要があるように思われる。それには、指導者と参加者の間に表出される技術を生活技術の指導・習得場面を構成する要素の一つに取り上げ、それを手がかりに、生活技術の指導・習得場面の分析枠組を提出する必要があるだろう。この枠組によって、例えば、生活技術の指導・習得場面に表出される技術の組合せのパターンがどのようになっているかを明らかにすることが考えられるが、その枠組の提出と検討は今後の課題の一つである。第二は、

生活技術遂行の良し悪しに対して、分析対象のキャンプに参加するまでのすべての習得活動が影響していると考えられるので、分析で明らかにした生活技術の遂行状況（またはその到達度）のどの部分までが分析対象のキャンプでの習得によるものなのかが分からないことである。これについても今後検討しなければならないであろう。

注

- 1) 生活技術の遂行状況について、ここでは生活技術の行使がキャンプでどの程度うまく成し遂げられているかを観察者が評価することによって捉えている。その検討結果は、拙稿「生活技術の遂行状況の観点によるキャンプにおける野外炊事分析」（『野外教育研究』3-1, pp.37-47, 1999）を参照。またここでいう到達度は、生活技術の遂行状況の目標に対する到達度で、それは拙稿「生活技術習得枠組による青少年の組織キャンプ分析－食事の場合－」（『日本生涯教育学会論集』20, pp.133-140, 1999）で検討している。
- 2) 技術遂行における難易度が高いということについては、技術そのものの難易度が高いことや、それまでの技術習得の程度が低いことなども影響していると考えられる。しかし、それらは、生活技術習得上の問題点をまず明らかにしてその問題点を解釈・評価するときに検討したいと考えているので、ここでは取り上げない。
- 3) 前掲拙稿「生活技術習得枠組による青少年の組織キャンプ分析－食事の場合－」pp.134-135 参照。なおこの枠組は、そこでも述べているように、厳密には生活技術の行使がキャンプでどの程度うまく成し遂げられているかに限定した分析をしようとするものであるので、本論文では生活技術遂行の分析枠組と呼ぶことにしたい。
- 4) データ収集のために行った観察の概要は、前掲拙稿「生活技術習得枠組による青少年の組織キャンプ分析－食事の場合－」を参照。
- 5) 注1)参照。
- 6) タイプ分けにあたって、各生活技術について、「一度でうまくできた」と評価したのべ観察者数の全体ののべ観察者数に対する割合（A）と、「繰り返し行ってうまくできた」と評価したのべ観察者数の全体ののべ観察者数に対する割合（B）を算出した。A、Bそれぞれについて、第2表のように区切ると、難易度は理論的には15タイプに分かれることになるが、事例では8タイプのみに分かれている。
- 7) ただし、タイプⅧに入る技術は、技術遂行の成否の検討で「繰り返し行ったがうまくできなかった」の比率の高い技術としてすでに取り上げたものである。
- 8) 観察時期別にみると、ここで挙げられた技術のほとんどが、第1回では指導者の援助「あり」の比率が高く、第2回では指導者の援助「あり」の比率が低くなっている。これは、キャンプ後半になるにしたがって、指導者の援助を意識的に減らすというキャンプ指導法的一端を示すものであると思われる。しかし、キャンプ後半でも依然指導者の援助「あり」となっている班があるが、その原因が班の状態によるものなのか指導者の指導上の癖なのかということまでは分からない。
- 9) 遂行状況の評価の低い技術は、前掲拙稿「生活技術の遂行状況の観点によるキャンプにおける野外炊事分析」ですでに明らかにしている（同、pp.40-41を参照）。
- 10) 拙稿「青少年の野外教育における生活技術習得活動の分析枠組」（『日本生涯教育学会論集』19, pp.57-66, 1998）参照。